

精神科病院長期入院者の退院支援におけるピアサポーター導入と定着のあり方
—F 県でのアクション・リサーチの取組み結果を踏まえて—

社会福祉学専攻 水野 英一

要 旨

精神科病院社会的入院解消に向けた取組みとして、日本では 2003 年以降、地域事業所と医療機関が連携した退院支援事業が取り組まれてきたが、実効あるものになっていない。これに対し本研究は、ピアサポーター導入による長期入院者の退院意欲喚起等の有効性に注目し、まずは国内他都道府県の好事例調査を実施すると共に、その調査知見に基づいて F 県に最も適合的な退院支援におけるピアサポーター導入と定着のあり方を、F 県研究協働チームを組織するアクション・リサーチから明らかにすることを目的にした。

アクション・リサーチは 4 段階で実施した：①全国 4 か所の好事例調査、②フォーカス・グループ・インタビューによる F 県の現状調査、①と②の質的記述的分析で得た結果を基に実践者・当事者参画型評価チームを結成して、③プログラム評価方法論を用いた「効果モデル」の開発、④効果的援助要素など「効果モデル」を活用した実施マニュアルの作成を行った。

このアクション・リサーチにより、7 領域 33 項目からなる効果的援助要素を含む、F 県に適合的と考えられる「効果モデル」を構築した。この取組みは、F 県独自のプログラムとして存在する「精神障がい者ピアサポーター登録制度」を、制度の狭間と化す長期入院者の退院意欲喚起に活用することで、長期入院者が自主的に退院支援プログラムを活用しながら退院を目指し、退院後も地域定着することを目指すものである。それと共に、ピアサポーターがその活動範囲を拡張、啓発活動や退院支援など、自己に適したピアサポート活動を選択することも目指すものでもあり、最終的にピアサポーターと長期入院者の双方が、地域での更なる生活意欲を獲得し、自己実現やリカバリーが達成できるものとなった。これは F 県と似た状況下にある他都道府県での取組みに応用できるものとする。

また、本研究では「長期入院者の退院意欲にピアサポーターを活用した退院促進プログラム実施マニュアル」の完成を目指し、ワークショップ開催の準備段階までを行った。現在も実践レベルで研究を継続しており、その完成を目指すと共にモデルケースの取組みにチームで着手している。

以上から、本研究を機に結成した実践者・当事者参画型評価チームは、各属性の枠を超え、F 県に相応しい支援の在り方を目指し議論を展開した結果、チーム活動の有効性が示唆された。